

工大広報

2016年4月4日発行(年4回発行)

No.281

Spring 2016

2016年4月4日発行
(年4回発行)



ご入学おめでとう
新入生の皆さんへのメッセージ
在学生によるキャンパス紹介

長町キャンパス 3号館 桜の小径

ご入学おめでとうございます

「環境は整っています 今からはじめましょう」

学長 こんの ひろし
今野 弘

本学の建学の精神は、言うなれば「社会に役立つ人間を育てること」です。

「社会に役立つ人間」として必要な能力は、本学では、①知識と理解力 ②論理的思考と分析スキル ③協調性と適応力 ④コミュニケーションスキル ⑤課題発見とその解決能力 ⑥国際理解と語学力と考えています。

では、それを得る方法は、①大学で備えた学科目による知識の習得と教員とのやりとり ②同年代の同好の士、異文化や異価値観の人との交流およびその年代におけるさまざまな経験や交流 などです。

それに取り組むときは、①いろいろなことに真摯で、積極的であること ②一人だけでなく、周りの人と協力してみる ③不自由なこと、理不尽なことを感じることをその解決を工夫すること ④また時には知らないところ、海外などに出かけてみる ⑤失敗してもやり直せると考えること などが大切です。

いずれにしても、皆さんには、教材、支援する教職員やご家族など周りのスタッフ、施設設備や各種施策の環境は準備されています。

もっとも大事なことは、君たちがそれらをしてみようと考えてることであり、一歩踏み出すことです。

さあ今からはじめましょう。



工学部長

前途洋々たる未来へ向けて 漕ぎ出そう！

こばやし まさき
小林 正樹

知能エレクトロニクス学科 教授



ライフデザイン学部長

学生生活が充実できる ライフデザインを

きくち りょうがく
菊地 良覚

安全安心生活デザイン学科 教授



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

教職員一同、皆さんのご入学を心より歓迎します。

本学は50年を超える歴史を有する東北地方屈指の大学です。卒業生は東北地方のみならず全国あるいは世界で活躍しています。皆さんも、その先輩たちに続く若い力として、大いに期待されています。これから皆さんは、生涯にわたっての基盤となる専門知識や技術を学びますが、社会で活躍するためには、同時にすぐれた人間性や社会性が求められます。大学は、そのような「人間性」を涵養する場でもあります。教職員は全力で皆さんをサポートしますが、何よりも重要なのは、自分から進んでものごとに取り組む姿勢です。与えられた学習だけでなく、今しかできないことを自分で見つけて存分にそれに打ち込んでみましょう。課外活動やボランティアなどの社会活動でもいいですし、資格の取得に取り組むことでもいいでしょう。前途洋々たる未来へ向けて、大学生という自由で贅沢な時間を有意義に、そして楽しく過ごされることを希望します。

新入生の皆さま、ご入学おめでとうございます。

ライフデザイン学部の教職員一同は、心より皆さまのご入学を歓迎すると共に、エネルギーに4年間を、遊学を通し満喫することを期待しております。

ライフデザイン学部は、文理融合による地域社会に貢献できる人材育成をめざし、平成20年に開設してから8年と歴史は浅いですが、今後の実社会では必要とされる分野であることは確かです。従って、日常普段の自分や他者の生活から諸課題を発見し、その解決をヒト・モノ・コト・場などで提案できる力が求められます。「作り手」「使い手」「つなぎ手」を担える人材を育むための3学科が、それぞれ有機的に連携しているのも学部の特徴です。また、学部や学科の垣根を越えて学ぶこともできます。チャレンジ精神を大いに発揮することを期待します。



安全で便利な社会を支えるために

まるやま つぎと
丸山 次人
学科長・教授

入学おめでとうございます。

スマホ・家電・車などの製品は、マイコンが組込まれて知能化され、安全で便利な生活を提供しています。この知能化情報社会を支えているのが電気・電子技術者であり、産業界からの人材需要は益々高まっております。

本学科では、電気・電子工学を基盤として、実践的教育と個を尊重とした教育・研究を充実させております。新入生には、入学後学外オリエンテーションを行い、大学生活の心構えと友だち作りの場を提供します。さらに実験・演習・研修を通じて実践的知識を修得して、卒業時には卒業研修の成果を発表します。また、3つの専門コース・資格試験支援講座・知エリ創造ラボを用意し、一人ひとりの個性に合わせた教育に努めております。

明るく元気で楽しい学生生活を送り、4年後、皆さんが安全で便利な知能化情報社会を支える技術者として巣立つことを楽しみにしております。



学外オリエンテーション（グループワーク）



卒業研修ポスター発表



現代の魔法使い

むらおか かずのぶ
村岡 一信
学科長・教授

毎日何気なく使っているスマートフォンやタブレット、インターネットによって、私たちは世界中の人たちと瞬時につながり、会話をしたり映像を交換したり、さまざまな情報を簡単に手にすることができます。かつて、ある著名なSF作家は「高度に発達した科学技術は、魔法と見分けがつかない」になると予言しました。もし、100年前の人を現代につれてくることができたら、小さな板（スマートフォン）に話しかけるだけで遠くの人と会話ができたり、地球の裏側の景色が見られるなんて、魔法を使っているとしか思えないでしょう。まさに、現代社会はすでに魔法の国なのかもしれません。その魔法を支えている技術が情報通信工学です。新入生の皆さんは、ホグワーツならぬ本学科で情報通信技術の秘密を学び、将来は現代の魔法使いとして活躍してください。



卒業研修ポスター発表会



新しい歴史を皆さんとともに

いしい さとし
石井 敏
学科長・教授

平成28年4月に、50周年を迎える建築学科。この記念すべき年に皆さんを迎え入れ、ともに新たなスタートが切れることをうれしく思います。50年かけて本学科の社会的存在とその価値は確立されてきました。在学生の皆さんの活動、7,500名を超える卒業生の努力と活躍のおかげで、今では「東北に工大建築学科あり」と、広く社会や建築業界でも認知されています。皆さんの手でこの歴史と伝統のバトンをつないでいってください。これからの4年間は人生の中でももっとも豊かで、人間的に成長できる大切な時間です。大いに楽しんで充実した時間を過ごしてください。

建築学は、豊かな社会の創造に直接的に貢献することができる学問です。これから皆さんが歩む道は、一本ではありません。さまざまな道と可能性があります。将来の夢と目標を持ち、自分に合った建築の道を探し求めてください。



50年前の八木山と建設中の建築学科棟（5号館）



学生時代に意識して欲しいこと

なかやま まさと
中山 正与
学科長・教授

入学おめでとうございます。教職員一同、皆さんの入学をお祝いし、これからの大学生活が実りあるものであることを期待します。大学生になった皆さんに、意識して欲しいことがあります。人は子供の時、親に面倒を見てもらいます。しかし、大人になり結婚をして子供を持てば、自分の子供の面倒を見、育てなければなりません。成長することによって面倒を見てもらう立場から見ると立場へと変わります。

それでは、学生時代の皆さんの立場とはどのようなものでしょうか。子供の時のように細かく面倒を見てもらうことがないし、人の面倒を見ることもない、比較的自由な時代なのではないでしょうか。そこで「自分の面倒は自分で見て、そして行動の責任を自分が取る」という意識を持つことが重要です。特に、親元を離れて暮らすことになる学生は強く自覚してください。



セミナーにおける卒業生の講話



能動的に、自分の頭で考え行動すること

まるお やすこ
丸尾 容子
学科長・教授

ご入学おめでとうございます。環境エネルギー学科は、平成28年3月に初めての卒業生を送り出しました。皆さんパイオニアの名前にふさわしく積極的に就職活動を行い、夢をかなえて巣立っていきました。言われるまでもなく、大学生は高校生と社会人の間にあり、4年という短い間で受け身が多かった生活を、専門分野に進みつつ能動的に変化させていくことを、行わなくてはなりません。また、社会に出た時に、自分の武器や守りの道具となる、基礎的な知識と技術を身につける必要があります。環境エネルギー学科では、皆さんがエネルギー・エコロジー関連の基礎工学分野で技術者として活躍するための基礎学問から専門知識・専門技術を学ぶことができます。積極的に、能動的に、自分の頭を使い、自己を確立しながらパイオニアの先輩たちに続いていくことを期待します。



1年生学外研修での変電所見学



デザインの力を育む

さかて ゆうじ
坂手 勇次
学科長・教授

ご入学おめでとうございます。

クリエイティブデザイン学科は、2008年発足以来9年目となりますが、その前身である工業意匠学科が開設した1967年から数えると、今年でちょうど50年目になります。その長い歴史と伝統を受け継ぎ、平成28年もまた新たに多くの新入生を迎えることができたことを大変嬉しく思います。

デザインの語源はラテン語で「計画を記号に表す」という意味の「de+sign」だと言われています。つまり、デザインとは、ある問題を解決するために思考・概念の組み立てを行い、それを表現し伝えること。それは、色や形のデザインに留まらない本質的なデザインの力です。本学科では、幅広い領域の知識と高い専門の能力を学ぶことで、社会のさまざまなシーンで活躍できるデザインの力を育成するプログラムを提供しています。皆さんの熱意と頑張り期待します。



メディアテークにおける卒業作品展



より解りやすく情報発信をしましょう

こやま ゆうじ
小山 祐司

学科長・教授

ご入学おめでとうございます。教職員一同、新たに学科の一員となられた皆さまと共に学びながら、社会に向けて解りやすく情報発信することを楽しみにしております。私共学科教員は、学生諸君とともに、さまざまな地域や現場に関わり合い、その現実を深く探求し、より良い「生活の場」の構築・維持を目指しております。快適な住まい空間をデザインしたり、地域コミュニティが良く機能するためのアドバイスをしたり、心身の健康を保つための実践的なアドバイスをしたりしています。その時、専門的な内容を解りやすくまとめ、伝えることがいかに難しく、かつ大切なのかを実感しております。それには、自分で感じて気付くことと、解りやすくまとめ、そして伝えることを、強く意識する必要があります。諸君が、失敗を経験しながらも発信力を高められることを、大いに期待しております。



長町キャンパスの癒やしの場・地域交流 ヤギ小屋の製作



地域防災の訓練・講習会
トリアージ訓練



城下町の住まい・町並み探索
弘前市仲町（侍町）



経営コミュニケーション学とは

かない たつろう
金井 辰郎

学科長・教授

ご入学おめでとうございます。本学科は本学唯一の文系学科として、経営学、コミュニケーション学を中心に、多くの学問分野を学ぶことができる場所です。学科名からは、お金儲けのことを連想する人がいるかもしれませんが、本学科で学ぶ、どの学問も（残念ながら？）人を出し抜いて自分一人がお金持ちになるなどということは目指していません。そうではなくて、人間と社会のあり方を考えながら、自分を含む社会全体を幸福にするにはどうすればよいかを考えるのが「経営コミュニケーション学」です。それは考え方の違う人たちがconflict（対立）を乗り越え、効率的に、しかし弱者には優しく、社会を運営する方法を考える、利他的で人間中心の学問です。

新入生の皆さん、損得を超えて、人のために考える学問なんてすばらしいと思いませんか。一緒に勉強しましょう。



学生制作フリーペーパー「ケイコミュ」表紙の撮影中



楽しく学ぶみなさんをいつも応援します

うめだ けんたろう
梅田 健太郎

共通教育センター長・教授

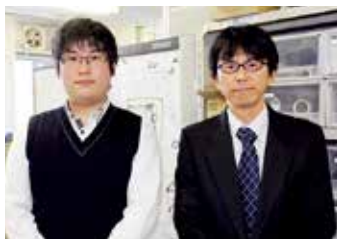
ご入学おめでとうございます。共通教育センター教職員一同、みなさんと教室でお会いできることを楽しみにしております。

共通教育センターは、社会で遭遇するさまざまな問題・課題を自ら考えて解決するのに必要な幅広い素養を身につけるための「教養教育科目」、みなさんが入学された学科の高度な専門科目に結びつく「専門教育科目」を担当します。当センター「manabiなんでも相談室」では日々の学習における疑問、質問にいつでも対応します。皆さんが大学で楽しく学び、大きく成長することを応援します。また、センター教員が指導する「課外活動」として、資格取得講座も用意しています。いろいろなことを学び、いろいろな人と出会い、そして語り、豊かな大学生活となるように何事にも積極果敢に取り組んでください。



ASEAN11カ国の大学生とセンター教員との国際交流

研究室で学んだこと



工 学 部

知能エレクトロニクス学科

藤田豊己研究室

人間のように考えて動くロボットを目指して

ふじた とよみ
藤田 豊己 教授ささき たいが
佐々木 大雅

佐々木 子供の頃からロボット作りに憧れていました。オープンキャンパスでは先輩方の作ったロボットを見て感動して、その時から藤田研究室に入りたい！と、思っていたんです。

藤田 うちの研究室では、毎年「知能ロボットコンテストフェスティバル」に参加していて、オープンキャンパスではその作品を動かして見せていたんです。佐々木さんが研究室に入って作った6脚のクローラ型ロボットもよくできていましたね。

佐々木 ありがとうございます！私をはじめ、ほとんどの学生がロボット製作初心者な中、先生が頻繁に様子を見に来てくださり、アドバイスをしてくださったおかげです。

藤田 ロボット作りはとても大変で根気がいる作業。がんばった過程は必ず将来につながる。何より、自分が作ったものが完成して動いた時の達成感と喜びは計り知れないですよ。

佐々木 はい。自分の作ったロボットで誰かが喜びとか、ロボットがこういう動きをすることでこんなことに役立つとか、考えるのが楽しいです。

藤田 災害現場や事故現場などの危険な場所に立ち入って、人

の代わりに作業ができたりと、ロボットには大きな希望がある。佐々木さんが卒業論文の研究で製作したロボットも、そういう可能性を秘めた最先端な研究で、機体の完成度も高かったです。

佐々木 コンテストで作ったロボットを改良していく中で、先生が助言をくださって、6脚の新型ロボットに挑戦したんです。今後は大学院に進みますが、それをよりよく動かしていけるように6脚ロボットの研究を継続していきます。将来、世の中の役に立つロボットを作れるように、ロボット工学への知識をさらに高めていきたいと思っています。



ロボットコンテスト用のロボットの調整にも余念がない



工 学 部

情報通信工学科

田村英樹研究室

近未来の生活を変える製品を生み出すために

たむら ひでき
田村 英樹 准教授たかや たかひろ
高谷 峻弘

田村 情報を動きに変えることのできるモータや動きを情報に変換するセンサは、ロボットなど近未来の生活に活用が期待される技術。私の研究室では超音波モータやセンサの開発をテーマに、コンピュータを使った設計シミュレーションと、実際に設計してみた試作品の測定を行っています。

高谷 3年の時の研究室紹介の際に、田村研究室で開発中の素子を見て、自分も作ってみたい！と直感的に思ったんです。プラモデル作りが好きでいつか自由に動かせたら…と夢見ていた子どもの頃。研究室に入って、実際にモータの開発に取り組みはじめてみると、成果がすぐ出ないことに悔しさを感じましたが、日々の一つひとつの測定や改良のプロセスが大事だと感じました。

田村 そうですね。開発は条件ごとに繰り返し測定の作業もあるので地道なものです。通常は大学院生が参加する学会に4年生ながら、研究内容を発表できたのも投げ出さずに根気強く研究に取り組んできた高谷さんの努力の証だと思います。

高谷 学会での発表は、これまで学校と研究室がすべてだった

私の世界を、大きく広げることができました。また、5月に行われた展示会のブース出展にも参加させてもらいましたが、メーカーの方や他大学の学生から率直な感想やアドバイスをもらえたことも、モチベーションのアップにつながりました。

田村 研究している物が実用化されることが、私たちの最大の目標。高谷さんには学問としての原理・原則だけでなく、製品の小型化や精度良く動かしたいなどのニーズに応えることのできる技術者を目指して欲しいと思います。

高谷 春からは、大学院生として引き続きお世話になりますが、大学院生として研究室を引っ張っていけるようがんばります。



超音波モータ制御実験装置を前に



工 学 部

建築学科

有川智研究室

社会や生活に根ざした「建築材料」について研究

ありかわ さとし 教授
有川 智

きくち まな 麻菜 (中央) / くまがい はるか 晴華 (左)

菊池 建築を人や社会、材料と関連づけて学ぶことを説いてくださったのが有川先生でした。私は設計志望で、材料の勉強のためにこの研究室を選択したのですが、先生の教で視野が広がり、デザインばかりに傾きがちな設計の課題も、実際に建ててみたらどうなるのかな、と視点が変わっていったんです。

熊谷 卒業論文では菊池さんと私でペアを組み、復興住宅に使われている木材の色差計測を行いました。木が注目されている今、木造の建築物が景観とどうなじんでいくか、木の魅力をどう伝えていくかを探るために、木材表面の変化をデータで分析しました。

有川 木材を使うことが推奨されている社会的な流れと、いいものを手入れしながら長く大切に使いしていきたいというこれからの建築のあり方、とても大切なことに目をつけましたね。

菊池 3年生の時に林業第一線の場所へ連れて行っていただき、木材や家を作る方のお仕事を見学させてもらったことが、研究の基盤となりました。就職活動中、企業の方から今の建築業界の課題について聞かれることも多く、先生や現場の方から生のお

話を伺えたことはとても意義深かったなと感じています。

熊谷 私は、研究室に配属された日に先生がおっしゃった、「この研究室では自発的に動いてほしい」という言葉が印象に残っています。その姿勢は就職してから必要なことだと思いますし、自分ひとりで動かせないこともあるけれど、自分が動けば変わることだってある、ということを教えてくださったんですよね。

有川 私が伝えなかったことが、しっかり理解してもらえてうれしいです。研究室としては震災から5年、今までの復興というテーマを継続していきながら、これからは復興後の建築や住宅のあり方を、もっと前を見て研究を進めていきたいと考えています。



木の色はどのように変化するのか



工 学 部

都市マネジメント学科

千葉則行研究室

物事を俯瞰的に捉えられる力を養える場所

ちば のりゆき 教授
千葉 則行

ささき しゅん 駿

千葉 研究室では「自然災害に強いまちづくり」を軸に地球科学を応用し、地すべりやがけ崩れなどの発生メカニズムを研究していますが、なぜ、この分野に興味を持ったんですか。

佐々木 高校時代から土木・建築に興味があり、この分野で働きたいという夢がありました。大学のバスケットボール部の先輩が千葉研究室の所属で、いろいろ話を聞いているうちに、地すべりについてこの研究室で学びたい! と思い、門をたたきました。

千葉 なるほど。佐々木さんは小学校からはじめたバスケットボールと研究をしっかりとこなす文武両道派。課題を見つけて解決する力、問題提起を把握する力のある学生という印象ですね。

佐々木 千葉研究室ではフィールドワークを通して「現場を自分の目で見る」大切さを学ぶことができたと感じています。

千葉 自分の目で災害の被災程度や規模、そして目の前に起こっている現実を肌で感じてもらいたいの、私の研究室はフィールドワーク重視。道なき道を分け入って歩いたり、時には山を登ったりと、結構体力勝負な研究室ですよ。

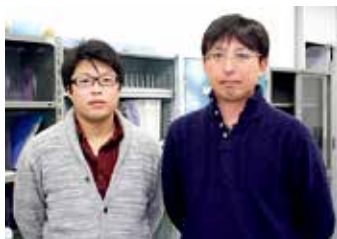
佐々木 普段、運動をしている私でも息が切れることもありました。この経験は東日本大震災で宅地被害を受けた土地の地質をテーマにした卒業論文を進めるうえでも役立ちました。

千葉 地質調査の第一歩は、「岩石や地層が出ている」「露頭」を探すこと。私たちは、あるかないかわからないものを自分の手で探し出す「宝さがし」のような作業の連続だものね。

佐々木 卒業研究では東日本大震災の影響を受けた仙台市北部の宅地をテーマに露頭を見つけるために約20地点の現地調査を行いました。被害の共通性やエリアごとの違いなどの研究成果を導き出すことができ、よかったと思っています。



地質図上での研究打合せ



工 学 部

環境エネルギー学科

牧雅康研究室

徹底した現地調査から、未来の環境作りを

まき まさやす
牧 雅康 准教授むらかみ たかひろ
村上 貴大

牧 うちの研究室はできて2年目の新しい研究室で、村上さんたちが最初の学生。部屋もまだ閑散としていますが……。

村上 動きは、バツチリ(笑)。フットワーク抜群です！

牧 みんな真面目でノリがよく、がんばる学生たち。この先輩たちを見て2年生3年生も入ってきてくれたので、頼もしいですね。

村上 私がこの研究室に惹かれた一番の理由は、海外で調査ができるところ。実際にタイに連れて行ってもらい、一週間ほど現地調査をするという貴重な経験をさせていただきました。

牧 タイでは土地の塩分が高くて作物が育たないという塩害が広がっていて、深刻な問題に。村上さんには、茨城大学やタイのコンケン大学の学生と一緒に、現地で調査をしてもらいました。

村上 初めて塩害の場所を見て驚きました。草一本も生えていない砂漠みたいな更地が放置されて広がっている光景は、衝撃的でした。現地の土地開発の方から話を伺ったり、他の大学の学生と交流したりと、なかなかない機会をいただき感謝しています。

牧 平均気温30度の猛暑の中、スクールに遭遇してずぶ濡れに

なりながら、がんばって調査をしてくれましたね。

村上 僕たちの卒業後、この研究を引き継いでくれる後輩たちに託す思いも込めて、卒業論文としてしっかりまとめました。

牧 すぐに答えが見えないものから答えを見つけていくことは大変なことです。行き詰まったりしても投げ出さず、苦勞して集めたデータを生かし、最後までやりきってくれました。そういう根気強さを、就職してからも継続して欲しいです。

村上 はい。4月からは空調関係の施工管理の会社で働くことになりました。環境エネルギーとつながる部分も多いので、これまで学んだことを生かして、環境を悪くしない空調を作っていきたいです。



現地計測に用いるドローン



ライフデザイン学部

クリエイティブデザイン学科

鹿野護研究室

デジタルデバイスに「アナログ」なアプローチを

かの 鹿野
まもる 牧 准教授ふじさわ ちひろ
藤澤 知絢

藤澤 先生の研究室で学びたいと思ったのは、最新のデバイスを活用した映像やグラフィック、アニメーション、アプリ制作などに興味を持ったからなんです。卒業研究テーマもヘッドマウントディスプレイの可能性を松島の観光PRに活かしたいと思いました。

鹿野 藤澤さんも私も松島育ち。地元だからこそ見えたこと、見えていなかったことがあったと思いますが、どうでしたか？

藤澤 自分なりに松島の魅力はわかっていたつもりでしたが、実際に観光ボランティア活動で伝える側、観光客の声を伺って、今まで見えていなかったニーズや新しい発見がありました。

鹿野 観光地が魅力的に見える撮影時間やシチュエーションなどにこだわったのも多くの「声」にふれたことがヒントになったのだと思います。毎年のように新しいテクノロジーが出てくる時代。その可能性を広げ、人の情緒に訴えるようなものを創り出すには、まず、人の心にもふれてみるのが重要。地道な作業だったと思いますが、人間の本質を多角的な視点で見つめ、問い、計画し、具体化するのがデザインの役割のひとつだと思います。

藤澤 はい。研究室での学びの中で、アイデアを精査しまとめる力やデータのまとめ方や調査方法など、身についたと思います。

鹿野 藤澤さんは2年生の頃から教えていますが、課題に向かって誠実にコツコツ取り組んでいくタイプ。以前からボランティア活動に積極的に参加していましたし、卒業研修においても自治体へ取材するなど、手間と時間を惜しまず、取り組んでいたと思います。社会人になってもどんな職種であれ、大学で習得した技術や考え方はきっと役立つと思いますよ。

藤澤 まだ動く自分の姿が想像できませんが、研究室での学びをこれからの仕事に活かしていきたいと思っています。



せんだいメディアアテックで行なわれた公開プレゼンテーション



ライフデザイン学部

安全安心生活デザイン学科

大沼正寛研究室

豊富なフィールドワークが問題解決のヒントに

おおぬま まさひろ
大沼 正寛 教授あべ はるな
阿部 春菜

阿部 ようやく卒業研究を終えることができましたが、先生の卒業研究はどんなテーマだったのですか。

大沼 「岩手県金ケ崎町の町並み保存」というテーマを選び、住み込みで調査。時間とともに味わいが増す住まいや建築に興味があり、ものづくりで実践したいと思ったことがきっかけで、建築設計の仕事に就いたんですよ。

阿部 卒業研究での出会いが先生の原点なんですね。私も金ケ崎町の視察に伺いましたが、約300年前古民家が移築再生された姿を見て、自分の住む家や地域の価値について考えさせられました。

大沼 入学した頃から「私は自分の育った仙台の街並が大好きなんです」って言っていましたよね。

阿部 元々、古写真や生活史が好きだったので、もっと掘り下げてみたいという想いがありましたが、どんな研究をすればよいか、わからずスランプに陥ってしまいました。

大沼 まず街へ飛び出してもらい、いろいろな人と交流を持つことが必要だと思って、街歩きイベントや震災を経験された方に

お話を伺うプロジェクトを阿部さんに紹介したんだよね。

阿部 はい。昔の仙台のお話や震災をたくさんの人から伺った経験は悩んでいた卒業研究のヒントになりました。街角の風景の移ろいや仙台の変わったところ、変わらないことを知ること

大沼 そんな身の回りの暮らしや住まい、社会システムを考える研究が「住環境デザイン」という分野です。

阿部 春からは住宅メーカーで設計士として働きはじめますが、大沼研究室での学びを胸に、地域や風景との調和、長年愛される住宅を設計していければと思っています。



木造建築の接合部模型で学ぶ



ライフデザイン学部

経営コミュニケーション学科

佐藤飛鳥研究室

企業の方との出会いで見えた、理想の働き方

さとう あすか
佐藤 飛鳥 准教授おがわ あやの
小川 綾乃

佐藤 私の研究室ではマーケティング論と人的資源管理論の2つを軸にやっています。マーケティング論では、地元の企業とコラボして商品をプロデュースする、というマーケティングの実践的な体験を行っています。製品の特長を生かしながら、パッケージデザインや売り出し方、ターゲット層なども含めて、どうしたら売れるかを学生主体で考えてもらいます。

小川 学生のうちから実際の商品開発に携われるのは、この研究室ならではのですね。とても貴重な経験になりました。

佐藤 小川さんはチームリーダーとして、よくがんばってくれましたね。みんなの意見をまとめて、代表で企業の社長と打ち合わせをしたりと、大変なことも多かったのでは。

小川 最初はメールの書き方もわからず苦戦しましたが、先生に指導していただき、実際に社長とのやりとりや商談を通して、ビジネスマナーが身に付きました。就職活動にも役立ったと思います。

佐藤 卒業論文は、人的資源管理論をテーマに選んでいましたね。

小川 はい。若年層の離職率の高さを知り、それを低下させる手

段としてメンタリング制度に目をつけました。自分自身がマーケティングプロジェクトや就職活動で企業の方と接する中で、尊敬できる方と出会い、モチベーションが高まっていくのを感じたこともあり、メンターという存在が働く原動力になるんじゃないかなと。

佐藤 「あの人がみたいになりたい」と目標を持って働く、ということに着目したのは、ポジティブな小川さんらしいテーマだと思う。

小川 先生も私にとってのメンターのひとりです。課題などは厳しかったですが(笑)、どんなことにも妥協せずに取り組む先生の姿は、これから社会人になる私にとってのロールモデルです。鍛えていただいた部分を生かして、今後もがんばっていききたいです。



プロジェクトで携った「立体的に描ける紙絵の具」の商品開発

東北工業大学には、八木山・長町の2か所にキャンパスがあります。いずれのキャンパスにも、緑豊かな敷地の中に、学生の皆さんの快適なキャンパスライフをサポートする各種施設があります。このページでは、キャンパスを3名の在学生在が紹介します。

CAMPUS



[1号館] tohtech LOUNGE



[1号館] 学生サポートオフィス



[4号館] 学生食堂



[4号館] ユニパル売店



[中庭]



[附属図書館 本館]



[クラブ棟]



[10号館] tohtech FORUM



[1号館] 保健室



[5号館] 女子学生ラウンジ



[5号館] manabiなんでも相談室

INFORMATION



【2号館】屋上

なかむら ともか
中村 友香さん
経営コミュニケーション学科

皆さんのキャンパスライフをサポートしてくれる施設がたくさんあります。

まだまだ紹介できていない、工大ならではの施設もあります。友達とおおいに利用してキャンパスライフを楽しみましょう！

さとう ゆりか
佐藤 由梨香さん
経営コミュニケーション学科



【1号館】作品展示スペース



【1号館】撮影スタジオ



【3号館】大学生協



【3号館】附属図書館 分館



【4号館】ウェルネスセンターカウンセリングルーム



【陶芸工房】



【ヤギ小屋】



【4号館】長町キャンパス事務室



【学生ホール】学生食堂



【4号館】学生ラウンジ



平成27年度課外活動優秀者表彰

平成27年度の課外活動において目覚ましい活躍をし、優秀な成績を挙げた団体と学生個人の栄誉を讃える表彰式が、2月10日（水）八木山キャンパスで行われました。

表彰式では、宮城光信学長より表彰状の授与ならびに記念品が贈呈され、その後の懇親会では学長はじめ諸先生と懇談を行いました。

表彰された団体・学生のさらなる活躍が期待されます。

（学年は受賞時）



〔団体〕

クラブ名	大会名または活動内容	成績など
チアリーダー部	国連防災会議、仙台六大学野球 演舞会、仙台六大学野球春季リーグ野球応援、第30回北海道科学大学総合定期戦壮行式、2015年度第1回オープンキャンパス、2015年度第2回オープンキャンパス、第30回北海道科学大学総合定期戦・記念祝賀会、仙台六大学野球秋季リーグ野球応援、城南フェスティバル、東北工業大学同窓会 懇親会、東北工業大学大学祭、大河原仙南民商まつり、第10回秋の八木山フェスタ2015、仙台市地下鉄東西線開業イベント WE STAGE、仙台市地下鉄東西線開業イベント WE WEEKS、第6回 HALEO SENDAI BOWL	
ハンドボール部	・平成27年度東北学生秋季リーグ ・平成27年度東北学生秋季リーグ 入替え戦	・3部1位 ・2部昇格
ボランティア部	つながりんぐ第6回代表者会、盲導犬募金活動、児童館クリスマス会の手伝い、秋保ゆきんこまつり、つながりんぐ代表者会、U-18世界防災会議、広瀬川エンジョイフォーラム会議、つながりんぐ代表者会議、広瀬川で遊ぼう ボランティア、盲導犬募金活動、雄勝うにまつり、仙台赤十字病院との合同防災訓練、仙台市福祉協議会ワークショップ、南小泉中学校 夏の寺子屋学習支援、荒町商店街 仙台七夕まつり、東四郎丸児童館 児童館に泊まって遊ぼう、東四郎丸児童館 かにつこ村まつり、若林区ふるさとまつり、つながりんぐ 長町交流フェスタ、南小泉中学校 冬の寺子屋学習支援、東四郎丸児童館 クリスマス会、巨大紙相撲 仙台場所	
環境サークルたんぼぼ	町美化、電気消灯活動、エコキャップ活動、壁面緑化、大学祭での容器リサイクル、ワケル・キャンパス・サポート、アクアソーシャルフェス、カーボン・オフセット、全国ギャザリング、みちのくギャザリング、割りばし回収、青葉祭エコステーションブース、サイエンスデイ、長町交流フェスタ、環境フォーラム、広瀬川灯ろう流しボランティア、せんだい防災のひろば	
応援団	仙台六大学野球春季大会選手激励、北海道科学大学定期戦壮行式選手激励、北海道科学大学東北工業大学総合定期戦選手激励、仙台六大学野球秋季大会選手激励、東北工業大学大学祭ステージ演舞、大河原仙南民商祭り	
大学祭実行委員会	第1回運動祭開催、愛宕神社お祭り手伝い、河北ウィークリー座談会参加、八木山学区民大運動会手伝い、スポーツ大会、第40回工大祭開催	

〔個人〕

氏名（学科・学年）	大会名または活動内容	成績など
菅田 義輝（情報通信工学科3年）	第37回東北学生アーチェリーフィールド選手権大会	男子第2位
三浦 健太（建築学科3年）	第40回東北学生アメリカンフットボールリーグ戦 二部リーグ	最優秀ディフェンスライン賞
吉田 光太（経営コミュニケーション学科2年）	仙台六大学野球春季リーグ戦	ベストナイン
菊地 和成（経営コミュニケーション学科3年）		敢闘賞
久慈 朋弥（経営コミュニケーション学科2年）		新人王
伊藤 胡桃（クリエイティブデザイン学科1年）		5位
金子 善明（環境エネルギー学科2年）	第56回全日本理工科学生柔道優勝大会 無段の部	個人3位
及川 大輔（知能エレクトロニクス学科2年）	東北地区大学準硬式野球春季リーグ戦 二部リーグ	首位打者賞
越田 拓樹（建築学科3年）		ベストナイン（三塁手）
佐々木 築（建築学科1年）		ベストナイン（一塁手）
遠藤 晶大（知能エレクトロニクス学科3年）	第52回仙台市民総合体育大会 少林寺拳法演武大会大学男子初段の部	1位
阿部 伸（建築学科3年）※ペアでの出場	第48回少林寺拳法東北学生会 男子初段の部	3位
穴戸 健哉（知能エレクトロニクス学科3年）	第53回宮城水泳競技大会	男子100m自由形1位 他
高橋 雅人（建築学科3年）	第19回JIA東北建築学生賞	最優秀賞
大森 健広（都市マネジメント学科1年）	建設技術展2015近畿 橋梁模型製作コンテスト	学生部門 審査委員特別賞



団体の部

チアリーダー部



大学の看板となるように

こばやし ゆか
小林 由佳

安全安心生活デザイン学科 2年

この度、このような賞を受賞したことを、大変光栄に思います。そして、関係者の方に、深く感謝申し上げます。

私たちは学内・学外を問わず活動しています。平成27年度は例年よりもさらに活動の幅が広がり、多くの方と触れ合うことができました。また、自分たちのダンスを披露するだけでなく、八木山動物公園のダンスや防災ダンスを踊るなど、地域貢献にも力を入れた年でした。

これからも技術向上に努め、本学と、八木山地域を盛り上げていこうと思います。



応援団



ありがとうと思うこと

おがわ かずのり
小川 和訓

知能エレクトロニクス学科 4年

4年前の私が聞いたら驚くかもしれません。とうとう芽が出て団員が増え、この大変に名誉な賞までいただきありがたく、感謝の極みです。「ありがたい」は感謝に使われる言葉ですが、原義は文字通り、めったにあることじゃないという意味だそうです。立ち上げた時、活動する時、たくさんの支援を受け、支えられているのだと感じました。我が団員は、皆さんの支えを当然と思うこと無く、日々感謝の念を抱きながら、活動して欲しいと思います。



個人の部

第2回全国学生・生徒ピストル射撃競技大会



多くの経験を重ねて

いとう くるみ
伊藤 胡桃

クリエイティブデザイン学科 1年

自分は高校生の頃からライフル射撃に取り組んでいますが、学校で表彰されるのは初めてで、努力が報われたと大変嬉しく思っています。

ライフル射撃は知名度も低く競技人口も少ないですが、そのため社会人の方と共に競技をすることが多いので、学生だけの活動では得られない多くの良い経験を得ることができる競技です。

これからもライフル射撃を通して経験を積み、自分を高めていきたいと思っています。



建設技術展2015近畿 橋梁模型製作コンテスト



技術者を目指し

おおもり たけひろ
大森 健広

都市マネジメント学科 1年

この度、このような賞をいただき、お忙しい中ご協力いただきました先生方に、本当に心より感謝申し上げます。

大阪で行われた「建設技術展・橋梁模型コンテスト」に出品し、審査委員特別賞を受賞しました。これまで、橋の構造などについて自分なりに調べてきたことを生かし、実力を知るとともに、一般企業の作品を見ることで、さらなる知識の向上を目指したいと思い、出品しました。

試作では失敗ばかりで苦戦しましたが、失敗から学ぶことはとても多く、失敗の一つ一つが新しい知識へと変わりました。

28年度も出品を予定していますが、さらに良い結果を出せるように頑張っていきます。



◆大学COC事業・せんだい創生プロジェクト 報告会開催

平成27年度大学COC事業報告およびせんだい創生プロジェクト報告会を本学八木山キャンパスにて、3月8日（火）に開催しました。

仙台市市民局と本学の連携協定に基づき、COC推進室および地域連携センターにおいて、仙台市のまちづくりを目的として採択し11件のプロジェクトを行った研究者と参画した学生による報告が行われました。

報告会には、仙台市関係者および企業団体などから大勢参加していただき、意見交換を交えながら盛会のうちに終えることができました。

学生には良い経験となり、仙台市から高評価も得られ、次年度に繋がるものとなりました。



プロジェクト研究代表者教員と学生による発表

◆「第58回Tohtechサロンーロボット座談会」開催

本学八木山キャンパスにおいて、3月11日（金）、「第58回Tohtechサロンーロボット座談会」が開催されました。

座談会は、知能エレクトロニクス学科丸山次人教授の研究課題である「ロボット制御」について、企業ならびに官公庁職員の参加のもと、広くその技術を発信するとともに、企業ニーズを知ることを目的としております。

本セミナーでは、現在展開している生活支援ロボットについての講義、および開発している高齢者用電動アシストカートの紹介が行われました。

トークセッションでは、地域企業のロボット産業への参入方法や、ロボットの活用についての活発な意見交換がありました。

今回の開催に当たり、企業の求めるものが明確となるとともに、今後の丸山次人教授の研究開発に有効な情報が得られる結果内容となりました。



丸山次人教授によるロボットセミナー



地域企業の担当者とのトークセッション

◆「雄勝いしのわプロジェクト」展示会と ワークショップ開催

伊藤 美由紀 安全安心生活デザイン学科 准教授

本学と雄勝硯生産販売協同組合が2012年に立ち上げた「雄勝いしのわプロジェクト」の紹介が、商工中金仙台支店で11月25日（水）から1月15日（金）まで開催されました。

雄勝硯をはじめ、石皿、マウスパッドなどさまざまなクラフト製品を展示の他、フローリストマイスター斎絢子氏の雄勝石を活かしたオブジェも展示し、華やかさを演出しました。また、熊本県伝統工芸館やスペイン・バルセロナでの展示会、「雄勝クラフトフェア」や「おがつウニまつり」の支援などの活動記録を紹介。雄勝石未利用材を使ったモノづくり体験などを通して、来場者から雄勝町や雄勝石の魅力が語られました。



雄勝石モノづくり体験をする来場者

◆本学主催 合同企業説明会を開催

キャリアサポート課

仙台市内の江陽グランドホテルにおいて、3月2日（水）・3日（木）の2日間にわたり、学部3年生、博士（前期）課程1年生を対象とした、本学独自の合同企業説明会を開催しました。

この説明会には、過去5年間に、本学学生の採用実績を持つ企業・団体を中心に、273社が参加しました。参加企業の採用意欲は年々増しておりますが、それに応えるように多くの学生が事前準備を整え説明会に臨んでおり、その姿勢は企業採用担当者の方から高い評価を得ております。

また、初日の午前中には、合同企業説明会に先立ち進路指導集会が行われました。宮城光信学長の挨拶ならびに外部講師による「今年の採用戦線の動向とこれからの就職活動」と題した講演が行われました。

平成28年は選考解禁時期のみが2か月前倒しとなり、27年と比べ説明会から選考までの準備を急ピッチで行う必要があります。本学では、今後も全学的な就職支援を展開していきますので、積極的に活用してください。



熱心に採用担当者の話を聞く学生

◆「ものづくり見学会」の実施

こいわ ひろのり 小祝 慶紀 環境エネルギー学科 教授

環境エネルギー学科の内田美穂研究室と小祝慶紀研究室では、平成27年12月17日（木）「ものづくり見学会」を実施しました。当日は、株式会社亀山鉄工所とNECトーキン株式会社を見学しました。学生たちは、それぞれの「ものづくり」の現場で、担当の方から説明を受け、積極的に質問をし、活発なやり取りができました。多くの刺激を受け、「ものづくり」の重要性を改めて認識した一日でした。当該見学会を企画してくださった宮城県産業人材対策課企画班の三浦様と伊藤様、株式会社亀山鉄工所とNECトーキン株式会社の皆さまには、大変お世話になりました。改めて感謝いたします。



見学会での企業担当者から説明を受ける学生

◆「高校生フォトコンテスト2015」入賞作品決まる

やまだ まさき 山田 真幸 都市マネジメント学科 准教授

平成27年度のテーマは、「我がまちの土木施設」としました。都市マネジメント学科の学問的基盤は土木工学です。これらに関連したドボクの仕事は幅広く、まちづくりや観光の一部も含みます。テーマに沿った身近なものを、高校生の視点から写し撮った作品はとても面白く、また意外なものもありました。27年12月に行われた審査会では、白熱した議論が交わされ、時間をかけて各賞を選出しました。入賞作品を都市マネジメント学科HPで公開しております。作品から私たちの生活を支える土木施設や、それを守る人々の智慧や営みを考えていただければ幸いです。



最優秀賞 御橋廊下

◆経営コミュニケーション学科シンポジウム

みやぞね みか 宮曾根 美香 経営コミュニケーション学科 教授

経営コミュニケーション学科シンポジウム「ポスト震災社会における地方創生の展望＜経営コミュニケーション学＞からの挑戦」を3月7日（月）長町キャンパスで実施しました。明星大学教授・一橋大学名誉教授の関満博氏の基調講演、研究室活動報告の後、パネルディスカッション（パネリスト：関満博同教授、浅見典彦仙台南高校教諭、猿渡学准教授、佐藤飛鳥准教授、モデレータ：金井辰郎教授）が行われました。70名の参加があり、地方創生にはベストの解決策はなく複数のアプローチがあり、そこに経営コミュニケーション学の研究・実践が活かせる可能性を感じていただけたと思います。



シンポジウムにおけるパネルディスカッション

平成27年度学位授与式

平成27年度学位授与式が、八木山キャンパス講堂(体育館)において3月18日(金)に挙行されました。ご父母、教職員、ご来賓列席のもと学部生520名、大学院博士(前期)課程25名、博士後期課程2名の代表に、宮城光信学長より学位記が授与されました。

学部生代表の経営コミュニケーション学科小関奈津美さんと修了生代表の工学研究科通信工学専攻今野由也さんが、今後の決意と、教職員、友人、家族への感謝を込め、答辞を述べました。卒業生・修了生の皆さまのこれからのご活躍を祈念いたします。



平成27年度 学位記授与者数

学部 合計520名

工学部 合計383名

■知能エレクトロニクス学科 ……77名
■情報通信工学科 ……90名
■建築学科 ……83名
■都市マネジメント学科・建設システム工学科 ……56名
■環境エネルギー学科・環境情報工学科 ……77名

ライフデザイン学部 合計137名

■クリエイティブデザイン学科 ……45名
■安全安心生活デザイン学科 ……47名
■経営コミュニケーション学科 ……45名

大学院 合計27名

工学研究科 博士(前期)課程 合計23名

■電子工学専攻 ……2名
■通信工学専攻 ……3名
■建築学専攻 ……10名
■土木工学専攻 ……4名
■環境情報工学専攻 ……4名

ライフデザイン学研究科

博士(前期)課程 合計2名

■デザイン工学専攻 ……2名

工学研究科 博士(後期)課程 合計2名

■建築学専攻 ……1名
■土木工学専攻 ……1名

topics

環境サークル「たんぽぽ」(ISO学生サポーター)メンバー募集中!

代表 **青野 晟也** 建築学科

「たんぽぽ」は、主に大学周辺のゴミ拾いや、ペットボトルキャップの分別、緑面壁化、教室の消灯活動などを行っています。また、学内だけではなく、他大学の環境団体や企業などと連携するなど、学外の環境活動にも積極的に取り組んでいます。学科学年を問わずメンバーを募集しています。メンバー同士とても仲がよく楽しく活動しています。大学生活を充実させたい方、さまざまな人と関わりたい方は、ぜひお問い合わせください。

【お問い合わせ先】

■八木山キャンパス10号館 3階
ゼミ室 ※毎週水曜日にミーティングを行っています。

■Mail: tanpopo.tohtech@gmail.com



「誰かの役に立ちたい気持ちを形に」ピアサポーター

ピア・サポーターは、学生同士の相互扶助を目的とした学生の集まりです。カウンセラーから心理学や傾聴術などを学びながら、ひとこと相談の回答や、援助を必要としている方へのサポートなどを行っています。大学祭への参加や宿泊研修など、全員で参加するイベントもあり、楽しく活動しています。誰かの役に立ちたいという気持ちをお持ちの方は、一緒に活動してみませんか。詳細は、両キャンパスのカウンセリングルームまでお尋ねください。

column

もりた けんいち
森田 健一 ウェルネスセンター カウンセラー 准教授

自己肯定感を高める

学生からの質問に「自信を持つにはどうすれば?」というものがあります。自信とは、心理学では「自己肯定感」と言われることもあります。自分を受け入れる感覚と定義できます。

すると、自信がないということは自分を「受け入れていない」ということになります。視点を変えると「自分は今もつとできるはずなのに」という理想の自分と比較していることもわかります。つまり、自信がない人は「現実以上に理想化された自己像」を内面を持っており、弱い自分をそれと比較しているため苦しんでいると考えられます。

しかし、たいていの人には100点満点ではありません。「すごい人」と周囲に尊敬される人ももちろん同様ですが、彼らは現実の弱さを認め(=自己肯定)、「理想に近づく努力」をしています。その姿を他者から見ると「自信がある」ように映るのです(ここで虚勢をはるタイプの自信家は対象外です。彼らは心理学的には「自信がない」から演じているのです)。

すると質問の答えも自ずと出てきます。過剰に理想的自己と比較せず、今の弱さを受け入れて、一步一步理想へと進み続けるという「覚悟」が自信なのです。そこに成功体験が加わればなお原動力となるでしょう。ちなみに自己肯定感の向上に一番手早いのは、朝目覚まし時計が鳴った瞬間に起きることです。「できる、自分」という感覚が抱かれ、「睡魔に打ち克つ」という小さな成功体験も伴っています。

ぜひお試しください。



前期の主な行事予定(平成28年度)

4月 ●4日(月) 入学式
●5日(火)～8日(金) 前期オリエンテーション
●11日(月)～7月29日(金) 前期授業

6月 ●25日(土) オープンキャンパス

7月 ●2日(土)・9日(土)・16日(土) 前期補講日
●23日(土)・24日(日) オープンキャンパス
●25日(月) 定期試験時間割発表

8月 ●1日(月)～3日(水) 前期定期試験期間
●4日(木)～9月16日(金) 夏季休業

9月 ●5日(月) 前期定期試験期間
追再試験時間割発表
●6日(火) 前期補習
●7日(水)～12(月) 前期追再試験
●20日(火) 後期オリエンテーション

本誌に関するご意見・ご感想をお待ちしております。

〒982-8577 宮城県仙台市太白区八木山香澄町35-1 東北工業大学 入試広報課
TEL: 022-305-3144 FAX: 022-305-3146 E-mail: kohositu@tohtech.ac.jp